

ANNUAL REPORT

事業報告書

2020



社会福祉法人 太樹会

皆様とともに

和里（にこり）

2020.4～2021.3



娯楽活動

コロナ禍のため介護の日などのイベントは開催できませんでしたが、地域交流スペースのピアノ演奏や屋上での花壇づくり、金魚すくいなどで楽しんでいただきました。



ビデオ通話

2020年度は、コロナウイルス感染防止対策として長期にわたるご家族および一般の方の訪問を制限させていただきました。

生活者のご家族の不安を少しでも軽減できるよう、Skypeによるビデオ通話を開始し、ご利用いただいております。

地域ボランティア

和里（にこり）玄関では、季節ごとの美しい花がお越しになる皆さまをお出迎えしています。この花壇は近隣の方がボランティアでお世話してくださっています。

クラブ活動など

地域で活動しておられるボランティアの皆さまやご家族にご指導をいただきながら、「陶芸」「茶道」「華道」「おりがみクラブ」を開催しています。

*2020年度は、感染予防対策のため、ボランティアはご遠慮いただいております。



季節の行事

季節を感じるために、外出支援、お餅つき、ゆずや菖蒲のお風呂など、皆さまと一緒に楽しんでいます。



e-Sports大会

年齢、性別など様々な違いを超えて、人・企業・自治体・学校などのつながりを目指しています。

e-Sports大会は毎月第3土曜日に主催しています。



ヤクルト（株）腸活講座

デイサービスセンターをご利用されている方を対象に、便秘にならない腸活や、嚥下についての勉強会を開催しました。



防災訓練

夜間に災害などが発生した場合、社員だけで生活者の避難誘導は困難です。緊急時の対応に備え、自助・共助の取組として近隣の自警団の皆さまと避難訓練を行いました。

長期ビジョン2027



社会福祉法人 太樹会は、和里（にこり）が10周年を迎えた2017年に「長期ビジョン2027」を検討しました。法人理念を実現するため、目指すべき方向を示した2022年3月までの5年間で具体化する行動目標を「中期経営計画2022」として掲げ、これに沿って様々な活動を展開しています。2020年度に取り組んだ内容についてご報告いたします。

Creating Shared Value

超高齢&人口減少社会において、地域社会のつづやき（困りごと、ニーズ）に真摯に取り組むことで、当法人の社会的価値は創造され、その結果として、経済的価値（自主・自律的な経営）が確立できます。

法人の使命と理念に基づく福祉実践を積み重ねていくことで、社会と共有できる価値の創造を目指します。

Personhood

パーソンフッドの向上

パーソンフッドとは、「支援する側、される側の区別なく、“私は必要とされている”と感じられる相互関係をつくること」であり、私たちが日頃から支援の目的にしようと試みている重要な概念です。

ステークホルダーとエビデンスを共有し、これらの概念をとともに実感できるように努めます。

Resource

経営資源の有効活用

公正かつ透明性のある法人運営のもと、地域のつづやきに真摯に向き合います。

社会に還元できるよう経営資源を活かしながら、共生・共助の地域づくりに貢献します。

Creation

創造性の発揮

私たちは、地域社会におけるセーフティネットを構成する社会資源です。

地域に暮らす人々から真に信頼される法人になるために、いつでも誰でも利用できる福祉サービスの創造に努めます。



新たな価値で経済発展と社会的課題の解決を両立

イノベーションで創出される新たな価値により、地域、年齢、性別、言語などによる格差がなくなり、個々の多様なニーズ、潜在的なニーズに対して、きめ細かな対応が可能となります。

モノやサービスを、必要な人に、必要なときに、必要だけ提供されるとともに、社会システム全体が最適化され、経済発展と社会的課題の解決を両立していける社会となります。

その実現には様々な困難を伴いますが、私たちもこの課題克服に果敢にチャレンジし、未来社会に互いの居場所が示せるような社会福祉法人の活動に努めます。



2030年 社会の主役である私たちのミッション

人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面しています。その危機感から、世界中の様々な立場の人々が話し合い、2030年までに達成すべき具体的な目標が立てられました。それが「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」です。

SDGsは「持続可能な世界」を実現するための、いわばナビのようなものです。

私たちは今、そのナビが示す方向に進めているのでしょうか？様々な社会の課題とSDGsとのつながりを知り、「持続可能な世界を築くためには、何をしたらいいのか、また、将来自分はどうのように目標達成に貢献できるだろうか」それを考えることが、2030年の世界で主役となって活躍している私たちに課せられたミッションです。

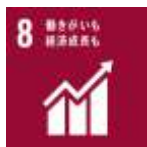


中期経営計画2022

2017年4月～2022年3月の5ヵ年計画

1 魅力ある職場づくり

パーソン・センタード・ケアを価値基盤とした組織風土の醸成や真のワーク・ライフ・バランスが実現できる職場づくりに努めます。また、ICTの活用などにより生産性の向上に取り組みます。



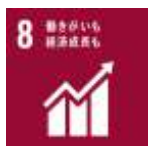
2 地域包括ケアシステムの推進

地域で継ぎ目なく支援が受けられるように法人内外の連携を強化します。また、第三者評価の受審などを通じて、地域支援と居住施設のあり方を追求します。



3 人財共育の推進

経営理念の明文化と周知徹底を行います。また、リーダー層の育成を重視するとともに、人事マネジメントシステム（採用ツール、キャリアパス、人事考課、報酬）を再構築します。



4 専門性と支援の質の追求

専門職としての価値を理解し、知識・技術の向上に努めます。また、科学的根拠に基づく研究と実践を行うためにも、産官学連携などに取り組みます。



5 地域コミュニティの活性化

法人が有する地域交流スペースを積極的に地域に開放します。また、法人間連携を強化し、地域のつづやきに応じた街づくりに貢献します。



6 生活困窮者への支援

生活困窮者が社会的自立を果たせるよう、様々な中間的就労の場を提供し、一般就労への移行を支援します。また、公益事業を展開し、経営資源の有効活用にも努めます。



7 健全な財務規律の確立

財務指標に基づく経営分析等を行うとともに、適切な収益性の確保に向け、職務権限・役割の明確化とコスト意識の醸成に努めます。



8 人権・福祉教育の推進

認知症や高齢者の理解を促進するため、学校などの他機関と連携した出前講座や啓発広報活動を実施し、人権尊重の意識の醸成に努めます。



9 理解と信頼を得るための情報発信

事業の透明性の向上のため、広報機能を強化し、第三者評価結果や苦情状況、財務諸表等を積極的に発信します。また、SNS等の普及を踏まえ、適切な情報管理に努めます。



10 災害時の対応

災害などに備えBCP（事業継続計画）の策定・周知をし、BCPに基づく訓練を行うとともに、災害時要配慮者の受け入れや復旧復興活動の支援を行います。



理事長 植島 宏信 インタビュー

将来像を描きながら，共に歩む



新型コロナウイルス（COVID-19）対策

10 災害時の対応

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが国内外に拡大しており，私たちの暮らしに大きな影響を与えております。当法人においても，ご家族のご協力・ご理解のもと，長期間の訪問制限を実施いたしました。

感染予防対策につきましては，2021年6月には特養生活者および支援員の接種が完了する予定です。

生活者，ご家族，社員の安全を守るため，今後も気を緩めることなく，奈良県庁，中和保健所などのご指導のもと，社員一同，体調管理はもとより感染対策には万全を期してまいります。

谷野会計事務所による経営マネジメント勉強会

7 健全な財務規律の確立

これからの社会福祉法人には，未来志向の自立的な法人経営が求められています。

当法人では，地域のニーズに応じた様々な福祉サービスを提供し続けるために，2019年度より谷野会計事務所による指導のもと，役職者や担当者を対象に，月1回の経営マネジメント勉強会の開催および各事業の収入目標計画の作成，進捗状況の確認や見直しを重ね，2020年度は，過去最高の収益を達成いたしました。

今後も地域に密着した質の高いサービスを提供すべく，法人の基本理念に基づいた中長期計画を策定，実践し，法人内だけでなく，社会に対するアカウンタビリティ（説明責任）を果たしてまいります。

県内就労・キャリアアッププロモーション動画

1 魅力ある職場づくり

女性の県内就労やキャリアアップにつなげることを目的に，「私の選択～奈良で暮らし，奈良で働く～」と題した動画が制作されました。「なら女性活躍推進倶楽部」会員企業である当法人含め5社の女性社員とその上司が，それぞれの働き方や仕事への情熱などが紹介されました。

厚生労働省では，優秀な人材の確保・定着やモチベーションの向上を図るため，多様な働き方の推進などに取り組む企業の事例を紹介する「多様な人材活用で輝く企業応援サイト」を開設しており，当法人が紹介されました。

また，「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」に登録し，奈良県Webページなどにも掲載されております。（2021.4.8登録企業196社）

今後も地域福祉の向上に努め，皆さまのニーズに応えられるよう，様々な活動を法人一体となって，積極的に取り組んでまいります。



私の選択【本樹会Ver.】



企業応援サイト【事例91】





法人理念

おおき

私たちは太樹な心で社会に貢献します

私たちは、支援が必要になった人のみならず、その人を取り巻く家族や地域住民も含めて、かけがえない人であることを誰もが互いに実感でき、未来に希望が広がるような社会の変革を目指します。

種々の実践では、パーソン・センタード・ケア*の価値基盤で対話し、可能性を引き出しあえる法人であり続け、大地に深く根付いた太い樹のごとく、共に成長したいと考えます。

* パーソン・センタード・ケア

その人を取り巻く人々や社会とのかかわりを持ち、
人として受け入れられ、
尊重されていると本人が実感できるように、
共に行っていくケア

日本人DCMトレーナー会，2009.6

運営方針

1. 素晴らしい体験は、素晴らしい組織から

理念や方針を実行に移すためには、組織の活性化が必須です。組織が活性化されない限り、パーソン・センタード・ケアの哲学は、絵に描いた餅となります。

いくら志が素晴らしくても、何も変わらなければその志も無価値に終わります。私たちが幸せになるような組織をともに創りながら、その組織を通じて、共生社会に貢献していきます。

2. 住み慣れた地域で、互いに必要とされる関係づくり

法人を取り巻くコミュニティ（地域社会）には、どのようなつづやきがあるでしょうか。それらを知るためにも、より一層のかかわりや出会いの機会を早めることが求められます。

嬉しいことやつらいことなど、様々な心の内をお話いただけるような関係を築き、それぞれの思いが実現できるように心がけます。我がこととして関係の質を高め、互いに支えあい、認め合えるような関係を目指します。

3. 一人ひとりの尊厳に配慮した暮らしづくり

環境が変化した場合、誰しも少なからず影響を受けます。特に影響を受けやすい高齢者の特性に配慮します。繊細かつ真摯なかかわりを継続していくためにも、本人の内面をわかってもらう気持ちと観察の技能などを用いて、現在、未来に何を求められているのか、何をしたいと思っておられるのか、などを推察します。

生活者が一人の人として、その能力を発揮し、生きがいや居場所を実感できるよう、地域生活の支援や生活環境の充実、権利擁護を具体的に推進します。

4. 専門職としての価値を理解し、知識、技術の向上

自分と異なる価値観を否定すると、対人援助が成り立ちません。

「人」が「人」にかかわる対人援助のプロフェッショナルとして、自己覚知を実践します。

自己覚知を試みると、自分を恥じ、苦しんだり、孤独感にさいなまれたりすることもあります。自分の中で相反する価値観が衝突するジレンマから逃げず、自分自身の理解や役割をともに深めていきます。

また、常に多職種間で、互いの役割やパーソン・センタード・ケアの哲学を共有するとともに、社会から期待される知識と技術を身につけます。



約束事

1. 日常の五心を伝え合います
2. 「介護」を「支援」と置き換えます
3. パートナー同士の私語をなくし、生活者を中心とした会話を心掛けます
4. 「～ですか？」の言葉かけて自己決定を促します
5. 緊急時以外、慌しい行動は慎み、落ち着いた支援を行います
6. 配慮が不足したかわりを行います
7. 気づき、考え、行動し、振り返ります
8. 「もし自分だったら…」と、常に念頭に置き、支援します
9. 多職種とのコミュニケーションを図り、スムーズな連携を目指します
10. 暮らしの場を損ねる恐れのある専門用語や「業務」的な言動を改めます
11. 人と動物が良きパートナーになれる共生社会を目指します

- ✓ 「はい」という素直な心
- ✓ 「すみません」という反省の心
- ✓ 「私がします」という奉仕の心
- ✓ 「おかげさま」という謙虚な心
- ✓ 「ありがとう」という感謝の心

“信頼関係”という便利な言葉は多用されていますが、無条件に信じられる関係を簡単に築くことはできません。

まずは、信用が得られるような人間関係を目指すことが必要ではないでしょうか。

そのためにも、日常の五心などを言動にすることが求められます。

五心を言葉にするのは簡単ですが、以下の点にも留意しましょう。

知っている < 解っている < できる < している < し続けている < 届いている



専門用語は、パートナー同士の連絡を簡潔に行うための単語ではないでしょうか？単語（言葉）の意味を理解せずに活用すると、誤解を招き、相互理解が困難になりかねません。そのような言葉を使うこと自体がパートナー本意とも考えられるため、私たちは専門用語の意味を考え、生活者本位である言葉に置き換えます。

例えば、「食介」「巡回」「帰宅願望」「現場」など、何気なく使っている言葉そのものは間違いではありませんが、パートナー本位の言葉ではないでしょうか。私たちが、認知症とともに生きる人たちのパーソン・フードを維持しようと取り組むプロセスとして、今一度、パーソン・センタード・ケアを考えるために、これらの表現を改めましょう。



法人概要

事業内容	第1種・第2種社会福祉事業（高齢）	社員数	189名
	公益事業	サービス活動収益	989,568,322円
設立	2006年（平成18年）2月	事業所	奈良県大和高田市：1ヶ所
代表者	理事長 植島 宏信		奈良県香芝市：2ヶ所

2020年3月31日現在

事業区分

社会福祉事業区分

和里（にこり） 拠点区分

法人本部
特別養護老人ホーム
ショートステイ
デイサービスセンター
居宅介護支援
無料または、自費に近い対価で食事などを提供する飲食店事業（コミュニティカフェ事業）

和里（にこり）香芝 拠点区分

地域密着型特別養護老人ホーム
ショートステイ
デイサービスセンター
居宅介護支援

和里（にこり）香芝Ⅱ 拠点区分

地域密着型特別養護老人ホーム
無料または、自費に近い対価で食事などを提供する飲食店事業（コミュニティカフェ事業）

公益事業区分

和里（にこり） 拠点区分

奈良県介護員養成研修事業（介護職員初任者研修／介護福祉士実務者研修）



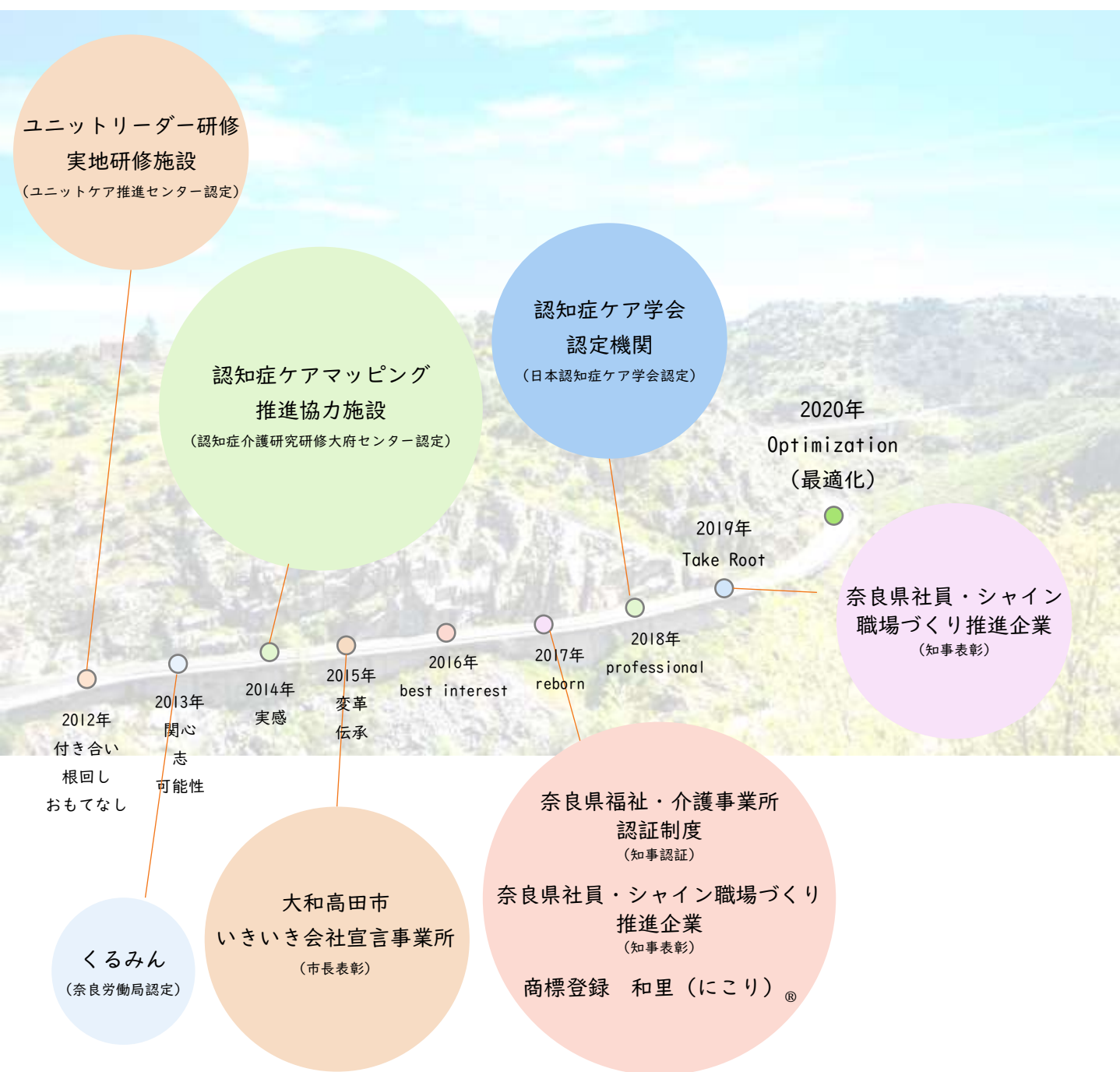
法人全体の取り組み

KEYWORDS

志と使命感をもって職務に取り組む社員を育て、有為の人財を社会に送り出すことが、21世紀の法人にとっての究極の社会貢献

日経CSRプロジェクト編：「CSR「働きがい」を束ねる経営」，日本経済新聞出版社，26-28（2006），一部改

パーソン・センタード・ケアの実現に向け，各自の姿を通して，
職務の奥深さや働きがいを発信しよう





法人全体の取り組み

オープンカレッジで地域貢献

- 4 専門性と支援の質の追求
- 5 地域コミュニティの活性化
- 8 人権・福祉教育の推進



DCM関西地区ブロック会 事務局

日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワークと連携し、パーソン・センタード・ケアの普及とその向上に努めています。



一人称体験プロジェクト研修会

コロナ禍のため、VR研修は実施できませんが、Zoom研修として、「認知症」「高齢者住まい看取り研修」「マネジメントスタンダードプログラム for Kaigo」を開催しました。福祉関係者をはじめ、一般、教員、学生など多くの方に参加いただき、認知症などの理解を深める機会となりました。



奈良県認知症ケア専門士会 事務局

地域の方々と力を合わせて、認知症ケアに取り組んでいる認知症ケア専門士のサポートに努めています。

地域交流スペースの無料開放

- 5 地域コミュニティの活性化

楽しくアロマヨガ	0回	0人
蹴真館	0回	0人
エムズヨガ	0回	0人
バンビーナインアリス	0回	0人
楽しく健康ヨガ	0回	0人
當麻混声合唱団	0回	0人
コールコパン	0回	0人
みつば家よさこい	0回	0人

ピハマウロアメケアロハ	0回	0人
ラ・ヴィ・コール	0回	0人
着付け教室	0回	0人
中国語教室	0回	0人
フラサークル プアオレナ	0回	0人
通夜・告別式	0回	0人
傾聴ボランティア		3人

*コロナ禍のため訪問制限を継続しています



法人全体の取り組み

メディア掲載&外部主催の講演会・発表

- 4 専門性と支援の質の追求
- 8 人権・福祉教育の推進
- 9 理解と信頼を得るための情報発信



Media coverage (The most recent 3years)

2019年 2月	奈良県	『働き方図鑑 なら産業人材育成ジャーナル vol.2』 奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業の紹介	社会福祉法人 太樹会
2019年 3月	奈良新聞	奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業 知事表彰	社会福祉法人 太樹会
	マイナビ	『cura』 素顔★COLLECTION 人のために働く人たちの日常に迫る！	嶋田 有里（相談職）
2019年 5月	奈良人権部落解放研究所	『ならヒューライツニュース』	吉川 聡史（施設長）
	日総研出版	『介護人財』 介護スタッフの【働き方&休み方】改革	吉川 聡史（施設長）
2019年 7月	奈良人権部落解放研究所	『みんなをつなぐ 包摂と寛容の社会をめざして』	吉川 聡史（施設長）
2019年12月	奈良県長寿・福祉人材確保対策課	『care Jr.（ケアジュニア）』	中西 由紀（支援職）
	中和新聞	認知症をもつ人とともに歩む社会へ	吉川 聡史（施設長）
2020年 3月	奈良県	『県民だより奈良』 女性活躍の“今”	鎌田 薫（支援職）
2020年 8月	厚生労働省	多様な人材活用で輝く企業応援サイト	社会福祉法人 太樹会
2020年 9月	奈良県社会福祉協議会	「元気シニアを大募集！」介護に関する入門的研修	畑中 眞佐子（支援職）
2020年11月	奈良県	なら女性活躍推進倶楽部	鎌田 薫（支援職）
2020年12月	奈良県	『社員・シャインな職場訪問記24』	吉川 聡史（施設長）





DISPATCH&REPORT (The most recent 1year)

2020年11月	介護実習	吉川 聡史（施設長）	奈良県立榛生昇陽高等学校
2020年12月	老年看護学実践論Ⅲ	吉川 聡史（施設長）	天理医療大学
	介護技能実習評価試験	岩岡 克己（管理者）	シルバーサービス振興会
	介護技能実習評価試験	吉川 聡史（施設長）	シルバーサービス振興会
2021年 1月	コロナ禍における人権力を子らの未来へ	吉川 聡史（施設長）	大和高田市人権教育推進協議会

*コロナ禍のため、その他の派遣はございません。

（各種団体の定例会議，介護認定審査会，県・市などの委員会などには派遣していますが，記載を省略しています）





コロナ禍における訪問対応

コロナウイルス感染症による感染症拡大防止のため、訪問制限を余儀なくされました。その中でも、生活者のご家族をつなげる方法として、無料のテレビ電話アプリ（Skype）を使用しました。現在約3割のご家族が利用されており、利用が難しいご家族についても、事務室窓口とユニットにおられる生活者をつなぎ、訪問制限下でも顔が見れる方法を検討・実施いたしました。



コロナ禍における余暇活動

コロナウイルス感染症による感染症拡大防止による影響は、外部の先生を招いたり、クラブ活動、余暇活動にも大きな影響を及ぼしました。

その中でもできることを検討し、社員と少数の生活者でできること（足湯、畑、花を楽しむ日、ユニット・個別での余暇活動）を実施いたしました。



マッスルスーツの導入

各ユニットにマッスルスーツを導入しました。福祉用具を様々な支援の場で積極的に使用することにより、生活者の心身の負担軽減、社員の腰痛予防や負担軽減に努めました。

新規（人）

要介護1	要介護3	要介護4	要介護5
1	11	10	4

実績：94.3% 前年比：- 0.5%

空床：延 524床

入院：延1,352床 誤嚥性肺炎、尿路感染など

次年度に向けて

DCM認定施設およびユニットリーダー研修施設としての責務を果たしながら、地域包括ケアシステムにおける一つの「住まい」としての魅力をステークホルダーに発信します。

具体的には、次の取り組みなどを実施します。

- ・感染症や災害への対応力強化
- ・自立支援と重度化防止（クオリティマネジメント&指標管理）

また、職場環境の維持向上のために、ICTの利活用とキャリアパスや福利厚生制度の展開および見直しを図り、将来の上位認証制度に備えます。

事業内容	介護老人福祉施設 定員90名	所在地	奈良県大和高田市野口325番3
担当者	施設ケアマネジャー 梶本 卓児		



生活の中で食の『楽しみ』を見つける

季節を楽しめるお食事を提供いたしました。端午の節句では菖蒲の練りきり、クリスマスにはケーキを楽しんでいただきました。他にも生活者に食べたい物を都度伺い、ピザを注文したり、お好み焼きや焼きそばを作ったり、ご希望にそえるよう対応いたしました。



コロナ禍だからこそ発信

ご利用中もご家族の訪問がたくさんありましたが、コロナウイルスが流行し訪問できない中で少しでもご家族に安心していただけるように考えました。

外部の講師を招いての音楽療法・陶芸・おりがみ倶楽部の行事などは、コロナウイルスの影響により中止になっています。その中で現在行っている行事（華道）に参加していただいたときの写真や生活のご様子が分かる写真とお手紙を添え、毎月ご家族にお渡ししました。

「写真を見て安心しました」「こんな表情久々に見ました」「いつもお手紙とお写真ありがとうございます」などのお言葉をいただいたこともありました。



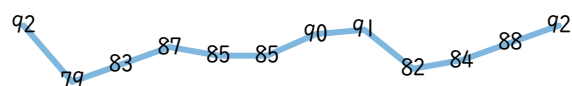
自分らしく生活を送れるように

ご自身で動きやすいように自宅で使用していたタンスや椅子を持参していただき、ご本人やご家族・多職種で家具の位置を検討し、お部屋の環境を整え、その方のペースで生活を送っていただけるよう支援いたしました。

他にも、リビングで運動ができるように足漕ぎマシンを購入し、活用いただきました。



稼働率 (%)



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

次年度に向けて

パーソンフッドを高め、自宅での関係性が継続できるような関わりを目指します。また、自立度が低下しないように、在宅復帰を念頭に置いて、重度化防止の関わりを実践します。

具体的には、次の取り組みなどを実施します。

- ・在宅生活の継続に向けた現状把握
- ・生きがいを実感できる目標指向型支援計画の実践
- ・ホスピタリティの充実（接遇、くつろぎの環境整備）
- ・広報活動の習慣化（実践内容、空床状況、行事予定表など）

事業内容	短期入所生活介護 定員20名	所在地	奈良県大和高田市野口325番3
担当者	相談職 堀江 麻里 ・ 嶋田 有里		



適切な運営・自立支援・重度化防止推進・在宅生活継続に向けて

適切な運営として経営状況の周知や稼働状況の報告を朝礼で実施し、現状認識を共有しています。

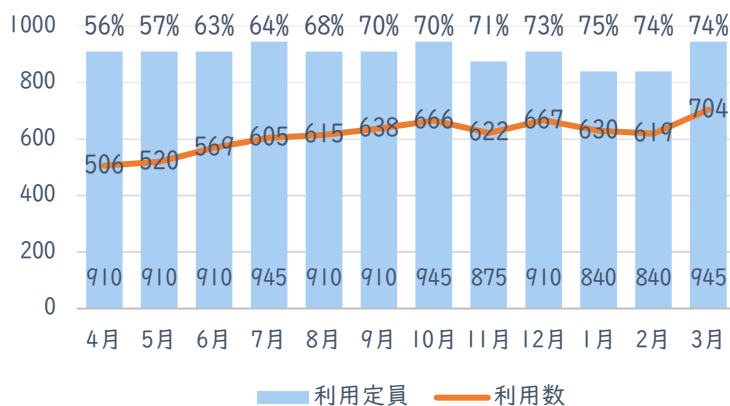
重度化を防止しつつ、自立支援を促していくために、機能訓練指導員による個別機能訓練の実施を基本としました。また、利用提供時間内の看護体制により重度化対応を目指しました。

季節行事やニーズに応じ、感染予防対策に努めながらの外出サービスの提供も継続しております。

地域交流につなげる仕組みづくりとして、近隣の生活者の畑を使用し、収穫や農業の指南を受けるなどから始めています。



2020年度 稼働実績



2019年度実績
60,645,232円 年利用者総数 6,809人
2020年度実績
71,032,782円 年利用者総数 7,361人

次年度に向けて

有する能力の維持に努め、自立した在宅生活の継続を視点においた支援を目指します。

生活者の活動意欲と社会参加が高まる環境づくりを実践します。

主な取り組みとしては、次の内容を企画いたします。

- ・感染症対策の継続
- ・科学的介護の推進のためにLIFE活用
- ・少人数（5名程度）における個別機能訓練の実施
- ・ポイントカードの内容および景品を拡充し、活動意欲の増進

事業内容	通所介護 定員35名	所在地	奈良県大和高田市野口325番3
担当者	管理者 岩岡 克己		



新型コロナの影響が大きかった1年

2020年3月から世界中で新型コロナウイルスが大流行し、4月には緊急事態宣言が発令されました。同時に感染拡大を懸念して、サービス利用を控える生活者が増えてきました。

またこの影響で、施設生活者・入院者は「訪問できない、外出できない」状態を余儀なくされ、ストレスや家族と会えないことから、精神的に不安定となることもありました。

法人内実践発表会において「コロナ禍における在宅生活の現状把握」というテーマでアンケートを実施、発表しました。

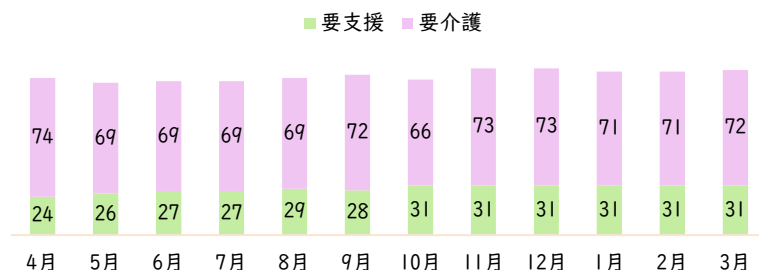
アンケートの結果、感染拡大防止のため、サービスを控える人もいましたが、一方で「認知症が進んでしまう」「足腰が弱る」「どうしても家でお風呂が入れない」などの理由から、サービス利用を継続している人もいました。



「コロナで訪問できないため、最期を自宅で…」

奈良太郎さん（仮名）：A市在住，要介護Ⅰ，男性

入院前はデイサービスを週2回利用していましたが、急遽発熱で救急搬送，入院となりました。PCR検査は陰性でしたが，入院中に点滴や酸素チューブを外すなどの行為があり，治療を優先するため，身体拘束を受けていました。今後は（本人の生前の意向で）胃瘻などの延命治療を望んでおらず（訪問もできないのであれば）自宅で最期を看取りたいと家族の意向がありました。事前にカンファレンスを行い，ベットレンタルや訪問看護の利用をしながら，3日間ではありましたが，穏やかな顔で家族や愛犬に見守られ，自宅で最期を迎えることができました。



次年度に向けて

居宅の要介護者が，居宅サービスなどを適切に利用できるよう，心身の状況，置かれている環境，要介護者の希望などを勘案し，居宅サービス計画を作成します。

総合的かつ効率的に支援されるよう各機関と連携・協働します。

具体的には，ICT活用などで遞減性の緩和に対応，地域ケア会議やケアマネ連絡会での情報収集，事例検討会の開催などでケアプランを点検し，地域協働のエピソードを言語化します。

事業内容	居宅介護支援	所在地	大和高田市野口325番3
担当者	管理者 吉川 聡史		



コロナ禍でも…

今までと違い、自由に外出、ご家族の訪問もできず、生活者にとってストレスになることが多い2020年度となりました。

少しでも生活者のストレス軽減やご家族に会いたいというニーズを満たすためにもSkypeなどを利用したオンライン訪問や制限付きの訪問を実施することで、できる可能性を模索しました。社員としても体調チェック、手指消毒などの感染対策の徹底を日々行い支援にあたりました。その結果、2020年度の感染症は生活者、社員ともに感染症0件となりました。

他にもZoomなどを活用したオンライン研修への参加、今まで研修会場までの往復時間の短縮と効率化を図りました。



新規

要介護3 4	要介護4 4	空床：延210床 入院：延483床	肺炎，大腿骨骨折，胆管炎など
-----------	-----------	----------------------	----------------

次年度に向けて

経営基盤とサービス向上のため、種々の取り組みを実施します。

- ・感染症や災害への対応力強化
- ・見学会の定期開催，地域イベントへの参加，空床利用の活用
- ・自立支援と重度化防止（クオリティマネジメント&指標管理）

また，外部評価の早期実施に向けて，法人本部，和里（にこり）と連携・協働を図ります。

事業内容	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 定員29名	所在地	奈良県香芝市鎌田594
担当者	施設長 植島 康平		



感染対策を行いながら

利用される生活者の出入りがあるということもあり、感染対策の徹底を行ってきました。

利用前の体温、症状チェック、手指消毒を行うなど、他の生活者も安心しながら利用できるように配慮してきました。

利用されるには様々な理由、事業所があり、その中から選んでくださっていますので、感染対策中であっても、できること、楽しんでいただけることを考え実施しました。



次年度に向けて

ショートステイ和里（にこり）と協調して支援にあたります。

パーソンフッドを高め、自宅での関係性が継続できるような関わりを目指します。

また、自立度が低下しないように、在宅復帰を念頭に置いて、重度化防止の関わりを実践します。

具体的には、生活支援計画書を生きがいのある目標指向型にすることや、ホスピタリティの向上などに努めます。

事業内容	短期入所生活介護 定員11名	所在地	奈良県香芝市鎌田594
担当者	施設長 植島 康平		

各自の知識（習慣）を生かす

敷地内の畑で収穫したさつまいも、大根、トマトやジャガイモを昔の頃を思い出し、靴が土で汚れるのも忘れるくらいに一生懸命収穫するなど機能訓練として行っています。採れ立ての野菜を使った食事づくりを社員が教わり、生活者の知識（味付け、切り方など）を調理に取り入れ、社員も参考にすることがたくさんありました。



生活者や社員が定着できるプログラムの構築と感染予防対策

野菜の収穫、食事づくりをとおした機能訓練以外にも、音楽を用いた体操を行いました。昔懐かしい唱歌や童謡、歌謡曲のリズムに合わせ、自然と体が動き、生活者が習慣・定着できるような体操を行いました。

また、NHKの回想法DVDを使い「皇室」や「おかしな歌と音色」など目で見ても、耳で聞いていた昔を振り返りました。

作業レクリエーションとして、季節を感じられるような作品づくりを行いました。

その他にも、足湯で食後のリラックスした時間を過ごされました。

新型コロナウイルス感染予防として、各テーブルにアクリルボードを置き、空気清浄機、加湿器をフロア内に設置しました。

また、利用時に各家庭で生活者の体温や自覚症状など、チェック用紙のご記入もお願いいたしました。



次年度に向けて

地域密着型サービスの特性を探ります。管理的な日課をつくらず、個別的な関わりを実践します。

本人の住み慣れた家（地域）での暮らしの継続や、生きがいづくりを支援します。

また、おもてなしを実践し、顧客満足度の向上を目指します。

具体的には、感染症対策の継続、自宅での暮らしの情報収集、生活リハビリや機能訓練の強化、お風呂へのこだわり、外出支援の実施、認知症ケアの質の向上などを実施します。

事業内容	地域密着型通所介護 定員10名	所在地	奈良県香芝市鎌田594
担当者	管理者 植島 康平		



訪問看護師に背中を押してもらって

数年間担当した要支援の生活者が、自身で救急車を呼び入院しました。
コロナ禍のため訪問ができないまま、半年後病院より、命がいつ終わりを迎えてもおかしくない、との連絡がありました。
ご家族は、迷わず自宅で看取することを決めました。

本来ならば、認定調査を受けて、暫定プランの承認を受けてから退院、との流れになりますが、訪問看護師より「できるだけ早く帰らせてあげよう、間に合わなかったら後悔するよ、私たちがしっかりサポートするから」と背中を押してもらい、ご家族の「お金がかかっても構わない」との言葉により、介護給付にならずとも仕方がない、という気持ちで退院調整を行い、看取りを決めてから6日後に退院されました。

そして、翌日にご自宅でお亡くなりになりました。

市役所の協力もあり、介護給付を受けることができ、ご家族も「信じられないくらいうまくいき、感謝です」と言ってくださいました。



次年度に向けて

居宅の要介護者が、居宅サービスなどを適切に利用できるよう、心身の状況、置かれている環境、要介護者の希望などを勘案し、居宅サービス計画を作成します。

総合的かつ効率的に支援されるよう各機関と連携・協働します。

具体的には、地域ケア会議やケアマネ連絡会での情報収集、事例検討会の開催などでケアプランを点検し、地域協働のエピソードを言語化します。

事業内容	居宅介護支援	所在地	香芝市鎌田594
担当者	管理者 南 泉		



食の楽しみ

生活者にとって「食べること」は大きな楽しみの一つです。

コロナ禍で外出することはできませんが、裏の畑でとれる旬の食材を使用し、ユニットで調理することで、季節を感じていただくことができました。

また、外出の代わりに「売店」を行いました。おやつや果物など自分で食べたいものを「選ぶ楽しみ」も大切にしています。



新型コロナウイルス感染症予防

未だ収束の目途が立たない新型コロナウイルスへの感染予防について、奈良県に講師の派遣をお願いし、勉強会を行いました。

専門家の目でチェックしていただくことで、より一層の感染予防対策を図ることができました。

新規：7名（居宅2名，医療機関4名，福祉系施設1名）

実績：95.0%

前年比：+8.0%

空床：延485床

入院：延335床（延16名，平均20.9日） 肺炎，心不全，糖尿病など

次年度に向けて

経営基盤とサービス向上のため，種々の取り組みを実施します。

- ・感染症や災害への対応力強化
- ・見学会の定期開催，地域イベントへの参加，空床利用の活用
- ・自立支援と重度化防止（クオリティマネジメント&指標管理）
- ・テクノロジーや介護機器，福祉用具などの活用

また，外部評価の早期実施に向けて，法人本部，和里（にこり）と連携・協働を図ります。

事業内容	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 定員29名	所在地	奈良県香芝市鎌田602
担当者	施設長 植島 康平		



介護福祉士実務者研修

2016年度の介護福祉士国家試験からは、「3年以上の実務経験と実務者研修の修了」が受験の条件となりました。

実務者研修を修了する制度移行の目的は、「介護の質を向上させるため」です。

2020年度より質の高い介護職を養成し、より深い理解を受講生に促進するためのWEB学習システムを導入しました。

将来的な介護福祉士国家試験受験の準備ができます。

1期生： 9名（一般1名／社員8名）

2期生： 8名（一般4名／社員4名）

2020年度

3期生： 8名（一般3名／社員5名）

4・5期生：12名（一般7名／社員5名）



次年度に向けて

当法人が培ってきた知識・技術・ネットワークを活用し、地域貢献することで、地域の福祉力・介護力を醸成し、地域福祉などの増進に寄与したいと考えます。

当該地域における雇用創出と介護福祉分野における経営革新の支援や創業支援を実施するための介護員の養成を図ります。

具体的には、初任者研修の再開検討、実務者研修（年2回、定員15名）の開催と授業設計の充実に努めます。

事業内容	実務者 4月・7月 定員15名	所在地	奈良県大和高田市野口325番3
担当者	施設長 吉川 聡史		



出会いのポイントを早め、継続性のある暮らしを支える『和gen』



カフェ
毎週土曜日
コロナ禍のため中止



居酒屋
第3金曜日 計2回

生活者	11名 (▲359)
一般（家族含む）	0名 (▲269)
社員	8名 (▲60)
計	19名 (▲688)

食材販売
果物・調味料・炊き込みご飯の素
など普通の食事に一手間を加える
ために販売しました。

地域の方が誰でも気軽に立ち寄ることができる『和gen 香芝Ⅱ』

好きな飲み物、お菓子を選ぶ、カフェで友人と会話を楽しむ。

そんな普通の暮らしを大切にしてきました。

（認知症カフェ：1回開催、参加者5名）



カフェ
第3木曜日
コロナ禍のため中止



おやつバイキング
不定期
コロナ禍のため中止



居酒屋
不定期
コロナ禍のため中止

次年度に向けて

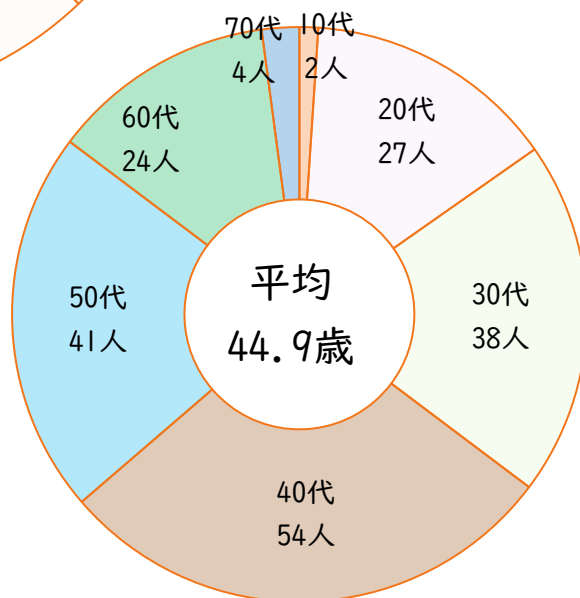
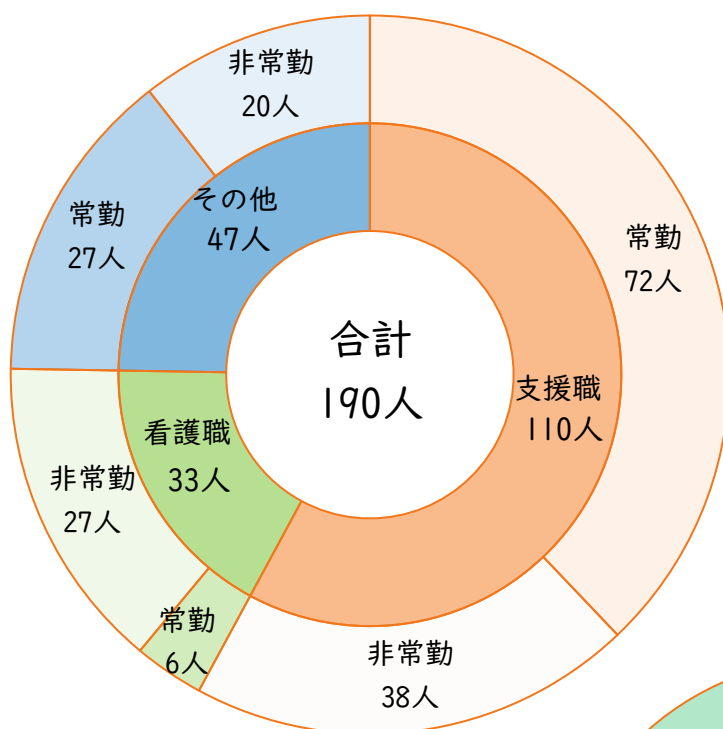
認知症などがあっても、ごく当たり前に暮らし続けることができるよう、また、支え合いのできる地域社会を築いていけるよう、地域に開かれた事業所を目指します。

認知症とともに生きる人とその家族、地域住民、専門職など、誰もが気軽に訪問できる居場所となり、種々の相談などができる関係性を築きます。

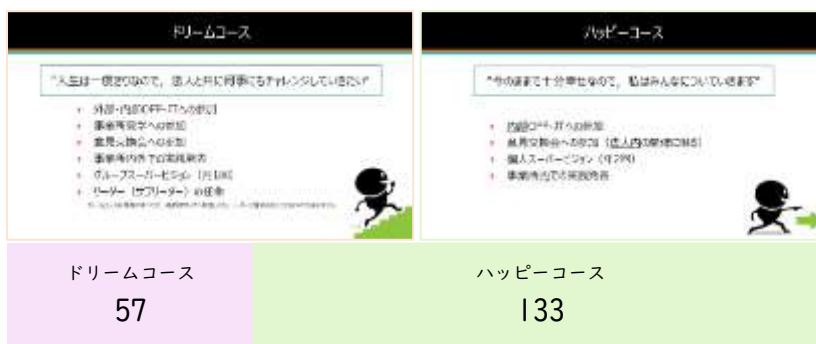
具体的には、感染症や災害への対応力強化、開催日の拡大（他機関、地域住民への貸し出し）、プログラムの充実（大学との連携、終活・就活セミナーなど）、たずさわる人の養成、まほろば幸いネットなどと連携に努めます。

事業内容	コミュニティカフェ	所在地	大和高田市野口325番3／香芝市鎌田602
担当者	管理栄養士 竹内 彩予祐 / 管理栄養士 原賀 裕也		

無料または、自費に近い対価で食事などを提供する飲食店事業（コミュニティカフェ事業）



女性 134	男性 56
-----------	----------



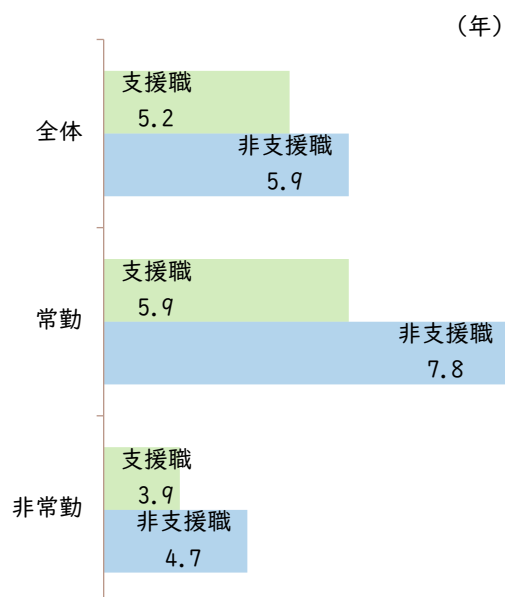
(人)

介護福祉士	97	ユニットケア管理者研修	2	認知症介護指導者	5
実務者研修	26	ユニットケア指導者	2	認知症介護実践リーダー研修	17
ホームヘルパー1級	3	ユニットリーダー研修	10	認知症介護実践者研修	18
ホームヘルパー2級	26	アセッサー	22	認知症介護基礎研修	8
初任者研修	16	福祉住環境コーディネーター2級	6	DCM上級ユーザー	3
社会福祉士	6	福祉住環境コーディネーター3級	1	DCM基礎ユーザー	8
社会福祉主事	8	衛生管理者	1	上級認知症ケア専門士	5
看護師	26	日商簿記2級	2	認知症ケア専門士	22
准看護師	12	日商簿記3級	2	認知症ケア准専門士	1
管理栄養士	5	認定特定行為業務従事者	2	キャラバンメイト養成研修	2
作業療法士	4	介護福祉士実習指導者	6		
主任介護支援専門員	3	社会福祉士実習指導者	3		
介護支援専門員	15	介護職種の技能実習指導員	2		
精神保健福祉士	1	試験評価者養成講習	4		
歯科衛生士	1	介護福祉士ファーストステップ研修	2		

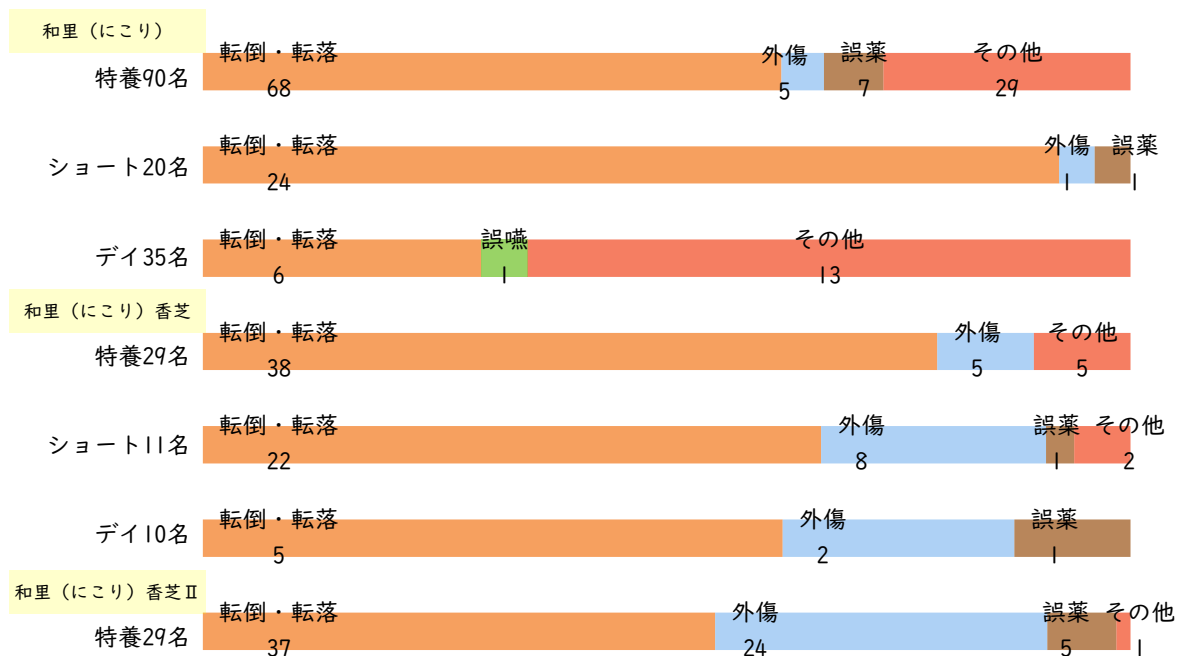
採用数・退職数の推移

	採用数								退職数								社員数 (年度末)
	小計	職種別内訳		雇用形態別内訳					小計	職種別内訳		勤続年数					
				常勤			非常勤										
		支援	非支援	正社員	契約社員	常勤パート	非常勤パート	嘱託社員		支援	非支援	3か月未満	1年未満	3年未満	5年未満	5年以上	
2007年度	85	54	31	44	2	15	21	3	31	21	10	21	10	0	0	0	54
2008年度	19	15	4	13	1	3	2	0	17	14	3	4	7	6	0	0	56
2009年度	35	23	12	17	3	3	9	3	20	16	4	10	4	6	0	0	71
2010年度	39	26	13	12	6	1	13	7	29	18	11	8	11	6	4	0	81
2011年度	88	56	32	44	9	5	24	6	37	22	15	14	11	6	6	0	132
2012年度	65	44	21	32	9	0	19	5	52	33	19	19	16	11	4	2	145
2013年度	60	41	19	30	5	1	16	8	52	33	19	19	16	11	4	2	153
2014年度	67	57	10	40	4	3	13	7	51	42	9	19	8	8	11	5	169
2015年度	40	26	14	16	5	3	12	4	34	27	7	7	10	10	7	0	175
2016年度	44	30	14	21	3	0	16	4	35	23	12	7	6	10	7	5	184
2017年度	38	24	14	12	0	2	19	5	40	28	12	10	6	14	2	8	182
2018年度	36	18	18	15	1	1	17	2	47	25	22	4	6	16	6	15	171
2019年度	54	11	23	12	2	2	35	3	41	28	13	9	11	10	5	6	184
2020年度	31	20	11	12	3	1	12	3	25	16	9	4	5	10	3	3	190

	定着率		離職率	
		試用期間除く		試用期間除く
2007年度	42.6%	81.5%	57.4%	18.5%
2008年度	69.6%	76.8%	30.4%	23.2%
2009年度	71.8%	85.9%	28.2%	14.1%
2010年度	64.2%	74.1%	35.8%	25.9%
2011年度	72.0%	82.6%	28.0%	17.4%
2012年度	64.1%	77.2%	35.9%	22.8%
2013年度	66.0%	78.4%	34.0%	21.6%
2014年度	69.8%	81.1%	30.2%	18.9%
2015年度	80.6%	84.6%	19.4%	15.4%
2016年度	81.0%	84.8%	19.0%	15.2%
2017年度	78.0%	83.5%	22.0%	16.5%
2018年度	72.5%	74.9%	27.5%	25.1%
2019年度	77.7%	82.6%	22.3%	17.4%
2020年度	86.8%	88.9%	13.2%	11.1%

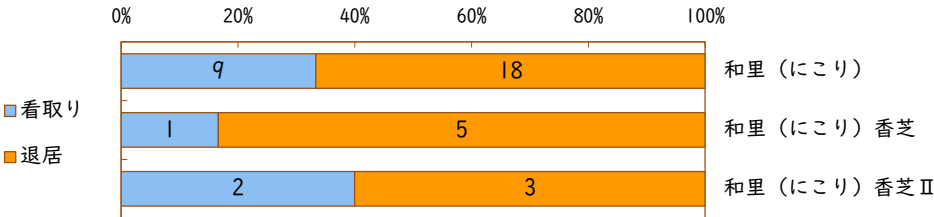


事故報告件数 2020年4月1日～2021年3月31日



区分	申出人	方法	苦情内容	説明不足	社員の態度	サービス内容	サービス量	管理体制	権利侵害
特養	家族	☎	社員の連携が取れていない					✓	
特養	家族	☎	社員の連携が取れていない					✓	
特養	家族	☎	希望している社員からの連絡がない					✓	
特養	家族	☎	社員の支援やマネジメントの質が悪い			✓			
特養	家族	対面	保健センターで予診票をもらえなかった	✓					
特養	家族	☎	事故報告で希望している社員からの連絡がない		✓				
特養	家族	☎	動かない母がなぜ車いすからずり落ちるのか			✓			
特養	家族	☎	受診時のトラブルに社員が誰も触れない					✓	
特養	家族	対面	いくつかの支援の内容に対して			✓			
特養	ご本人	対面	社員の支援の仕方が荒い			✓			
特養	家族	☎	終わっていると思っていた接種がまだだった			✓			
特養	家族	☎	社員の支援やマネジメントの質が悪い			✓			
特養	家族	☎	病院受診の待ち合わせ時間について相違回数が多い					✓	
特養	家族	☎	家族への連絡が遅い			✓			
特養	家族	対面	季節に合った服を着せてくれない			✓			
特養	家族	対面	同姓の人の服を間違えて着ていることが多い			✓			
特養	家族	☎	ユニットに電話を掛けたが勝手に切れた					✓	
ショート	家族	☎	受診の段取りなど連携が取れていない					✓	
外部	匿名	☎	デイ送迎で交通ルールを無視している					✓	

看取り支援をさせていただいた生活者数





0人（延人数）

地域交流スペースの貸し出し

事業所の認知度向上が主目的ではありません。
地域住民のつぶやき（生活課題）を知り、事業所の
方向性を探ること。
コロナ禍のために、13団体のサークルの皆さまには
利用制限をお願いいたしました。

29ヶ所

「くるみん」認定企業（奈良県公表）

次世代育成支援対策推進法に基づき、社員の仕事と
子育ての両立を図るための行動計画を実施している
ため、厚生労働大臣の認定を受けています。



1ヶ所

ユニットリーダー研修実地研修施設

日本ユニットケア推進センターの認証事業所は、全国に68か所
ありますが、奈良県においては、和里（にこり）のみです。
コロナ禍のため、実習は延期になっています。

221人（延人数）

実習生の受け入れ人数

コロナ禍のため、相談室・事務室にて社会福
祉士の実習生を受け入れ、事業所の役割や専
門性について対話をしています。

実人数は、21名でした。



5件（15,797,217円）

採択された補助金事業

法人としての活動の幅が広がるだけでなく、
チャレンジのための「ビジョン」と「計画的
実行」、そして法人の信用につながります。



5ヶ所

認知症ケア学会の認定機関（関西）

学会の代議員による推薦，教育支援を継続的に
行なっていることなど，一定の要件を満たした
認定機関数は全国に35箇所です。

206人

外部研修受講者（延人数）

ドリームコース社員を中心として，
個人と組織の資質向上を図るために，
法人外研修に積極的に参加していま
す。コロナ禍のためオンライン研修
が中心でした。

2団体

訪問団体数

閉鎖的環境ではなく，他法人などと積極的
な交流を図っています。コロナ禍のため，
近隣大学のリモート実習を実施しました。
「中小企業のための女性活躍推進事業」に
おける個別企業訪問支援も受けました。

2ヶ所

DCM推進協力施設（関西）

認知症介護研究・研修大府センターの認定事
業所は，全国に11か所です。認知症ケアの質
の向上のため，PCCの実現に努めるとともに，
事務局としての責務を全うします。



2ヶ所

認知症ケア専門士会（関西）

日本認知症ケア学会認定の専門士会は，全
国に26か所です。認知症ケア専門士の自己
研鑽と地域交流のため，事務局としての責
務を全うします。

2020年度 決算報告

貸借対照表

流動資産	268,923,385
固定資産	1,884,352,748
資産合計	2,153,276,133
流動負債	203,484,338
固定負債	584,141,000
純資産の部	1,365,650,795
負債及び純資産合計	2,153,276,133

事業活動計算書

【サービス活動増減の部】

サービス活動収益計①	989,568,322
（介護保険事業収益）	979,010,701
（経常経費寄付金収益）	3,013,782
（その他収益）	7,543,839
サービス活動費用計②	926,232,421
（人件費）	644,934,008
（事務費・事業費）	240,998,909
（減価償却費）	54,160,439
（国庫補助金等特別積立金取崩し額）	△13,860,935
サービス活動増減差額③=①-②	63,335,901

【サービス活動外増減の部】

サービス活動外収益計④	2,463,246
サービス活動外費用計⑤	11,341,199
サービス活動外増減差額⑥=④-⑤	△8,877,953
経常増減差額⑦=③+⑥	54,457,948

【特別増減の部】

特別収益計⑧	6,695,969
特別費用計⑨	6,683,540
特別増減差額⑩=⑧-⑨	12,429
当期活動増減差額⑪=⑦+⑩	54,470,377
前期繰越活動増減差額⑫	581,258,835
当期末繰越活動増減差額⑬=⑪+⑫	635,729,212
次期繰越活動増減差額	635,729,212



**STAY
HOME
SAVE
LIVES**



Let's think positively about each other's lives.